

小説家・高山羽根子さんとめぐる

「あそぶ美術史」

美術にも造詣が深い小説家の高山羽根子氏をお迎えし、企画展「森村泰昌のあそぶ美術史—ほんきであそぶとせかいはかわる」の会場にて、作品の見どころ、着眼点などについてフリートークでお話しいただきます。多方面から美術をみる楽しみを得られる機会です。ぜひご参加ください。

日時：2020年4月5日(日)

14:00～(約60分を予定)

会場：展示室4に集合
(展覧会場をお話しながらめぐります)



高山羽根子氏

〈お願い〉

- * 展示室入場の際に、当日有効の企画展「森村泰昌のあそぶ美術史」展のチケットの提示が必要です。(高校生以下は無料ですので、展示室入口または1階受付にてチケットをもらってください。)
- * 展示室内でマイクを利用するトークになりますので、混雑等予想されます。ご了承ください。
- * 撮影可能のエリアでも、撮影許可のない方の高山羽根子さんご本人の撮影はご遠慮いたします。

たかやまはねこ

高山羽根子 / 小説家

略歴:1975年富山県生まれ、幼少期より関東で暮らす。多摩美術大学美術学部絵画学科(日本画専攻)を卒業。2010年、『うどん キツネつきの』が第1回創元SF短編賞の佳作に選出。同年、本作を収録したアンソロジー『原色の想像力』(創元SF文庫)で文壇デビュー。2015年、同作収録の作品集『うどん キツネつきの』(東京創元社)が第36回日本SF大賞最終候補に選出。2016年『太陽の側の島』で第2回林芙美子文学賞を受賞。2019年『居た場所』(文藝冬号)が芥川賞候補に選出。新作『如何様』(朝日新聞出版)では、復員した画家・そして贋作が重要な鍵となる。展覧会レビューの連載なども行っており、今後さらなる活躍が期待される小説家。

〇問い合わせ

富山県美術館 TEL 076-431-2711/FAX 076-431-2712

<https://tad-toyama.jp/>



富山県美術館
Toyama Prefectural
Museum of Art & Design